

交通政策調査特別委員会

調査報告

当委員会は平成21年12月18日に設置され、これまで13回の委員会を開催した。これまでの約2年間の調査について次のように調査結果をまとめた。

本市の公共交通の中心的位置づけにあるバス交通について、市内各路線の乗降客数、バス停上屋及びベンチの設置状況、乗客の意見収集を行ったバス利用実態調査及び先進的な都市の事例調査などを行い、今後取り組むべき事項をまとめた。

①現状の駅中心のバス路線から、周辺地域の利便施設や総合病院等を経由するような路線に見直すこと（市南部地域：平成25年嘉瀬地区に県立病院が開院予定のため、南部地域間で移動可能な路線を検討すること・市北部地域：すべてが

市中心部まで行くのではなく、乗りかえ等を前提とした核となるバス停や路線を検討すること）。

②市北部の地域特性に応じた交通手段として、デマンドタクシーなどの新公共交通サービスへの転換を検討すること。

③上屋、ベンチを計画的に増設していくこと（利用者数だけではなく、近くに病院があるなどの視点からも検討すること・バス停のデザインを市民公募で行うなど、利用促進に寄与する取り組みを検討すること・地元企業や病院にベンチ設置等の協力を求めるなど、地域と一体となったバス停の環境整備に努めること）。

④今後も着実なノンストップバスの導入が必要。公共交通サービスの維持・提供には、効果的な情

報提供と利用促進のため「高齢者運転免許証自主返納支援制度」の実施など、新たな取り組みの検討が必要。

⑥省エネルギー対策の推進や排気ガス削減による地球環境保全の観点から、バス利用を積極的に推進していくこと。

⑦市中心部における高齢者の移動手段を確保するための検討を行うこと。

これらのいずれの項目についても厳しい財政状況を前提として行っていくべきものであり、市民、交通事業者、行政が一体となった「みんまで守り育てる」地域公共交通施策の抜本的見直しが必要である。見直しに当たっては、地域住民の意向を十分にくみ上げるとともに、佐賀市全体をとらえた客観的視点から検討・実施する必要がある。

視察報告

日程 5月9日(月)～11日(水)

視察者12名(重田、川崎、山下伸二、山田、松永幹哉、山口、川原田、山本、中本、中山、西村、黒田)

①熊本県菊池市 巡回バス

ス「べんりカー」とデマンド交通「あいのりタクシー」

の取り組みについて

バスとタクシーの棲み分けの完全なる発想の転換、いわゆる中心部内の移動がタクシー、郊外部と中心部の移動が路線バスという従来の棲み分けから、中心部内の移動が巡回バス、郊外部と中心部の移動がデマンドタクシーに移行することにより、市の助成を大幅に縮減させるとともに、サービスの拡充にもつながっていました。



菊池市の巡回バス「べんりカー」

【所見】デマンドタクシーは、完全予約制の隔日運行で、1日最大3往復で実施されていますが、これまでの路線バスでは運行していませんが、これまでに拡大し、またドア・ツー・ドアでもあるため、サービスの向上につながっていました。本市の中山間地域での取り組みの参考になると思いました。

②広島県大竹市 「幹線バス」と「ライダー交通」の取り組みについて

住民ワークショップや商店街ワークショップ、意見交換会などを頻繁に行い、市民や民間交通事業者と行政が一体となった公共交通に関する計画が策定されました。これにより、市民みずからがバスの利用促進を呼びかけるなど、市民のやる気呼び起こすことにつながっていました。

【所見】計画策定時の市民意見の把握のみではなく、策定後においても、市民への公共交通に関する広報や市民との情報共有がしっかりと行われていることが、市民の理解とバスの利用促進につながっていると感じました。

常任委員会視察報告

総務

日程 5月18日(水)～20日(金)

視察者10名（川原田、中野、実松、山下伸二、池田、田中、福島、永淵、福井久男、西岡）

①愛媛県四国中央市

地域児童見守りシステムについて

総務省モデル事業を活用したものであり、システムとしては、登下校管理、状態把握、情報提供・危険通報の項目をシステム化し、教育委員会、学校、保護者が一体となり、活動を展開しているとのことです。

【所見】

地域の子どもを安心安全な環境の中で育てるのが、地域住民としての責務であります。佐賀市でもこのような事業が展開されるのであれば、子どもの命の安心安全を進める上で必要な施策と思われれます。



高梁市での視察の様子

②岡山県高梁市

定住促進について

「ひと・まち・自然にやさしい高梁」をキャッチフレーズにして、基本方針を①産業・雇用②環境・防災・社会基盤③健康・福祉④教育・文化・スポーツ⑤協働・まちづくりの5本をまちづくりの柱として、定住を推進する環境づくりを進めているとのことでした。

【所見】

各種事業を展開されていますが、高梁市ふるさと帰同窓会開催助成金事業については、市内のホテルや旅館・宴会場と協力していけば小さいながらも地域経済の波及効果はあるのではないかと思います。いろいろな施策を少しずつ進めていくことが大切だと感じました。

文教福祉

日程 5月18日(水)～20日(金)

視察者10名（堤、野口、川副、山田、松永憲明、白倉、松永幹哉、亀井、山下明子、重田）

①高知県南国市

学校給食の取り組みについて

①地元の中山間米を使用した給食、②家庭用電気炊飯器での炊飯、③地元の旬の食材を使った給食、④他地域（交流都市）との食材交流、⑤完全米飯給食の実施

更され、また、炊き立てのご飯を食べさせるために家庭用炊飯電気釜を導入されており、このようなユニークな発想は、食育に対する熱い気持ちから生まれてくるのではないかと感じました。

②香川県高松市

「高松市こども未来計画」について

NPO法人との協働により「子育てハンドブック」、「子育てカレンダー」、「父親手帳」、「子育て情報サイト」など、子育て中の親に対してきめ細かい事業を実施されており、また、市の環境部局で行っている用品交換情報の中からベビーカーやベビーベッドなどの子育てに役立つ情報をピックアップし、その情報を提供されていました。

【所見】

今後、さらに進んでいく少子高齢社会を鑑みれば、次代を担う子どもたちとその親に対して、さまざまな視点から子育て支援を実践していくことが大切だと思われました。



南国市食育キャラクター「こめおくん」「まいちゃん」のポロシャツ

【所見】従前は委託炊飯方式だったものから、業者を説得することによって自校米飯方式に変

常任委員会視察報告

建設環境

日程 5月18日(水)～20日(金)

視察者9名(原口、山口、野中、中山、本田、江頭、嘉村、黒田、武藤)

①愛知県一宮市 木曽川左岸河川敷遊歩道・自転車道整備について

一宮市は、平成17年4月の2市1町の合併によって木曽川に接する距離が18キロとなり、沿川には、豊かな自然環境、多くの歴史的文化遗产が残されており、それらの要素を遊歩道・自転車道によってネットワーク化することで、魅力的で親しみやすい空間を形成されていました。



木曽川左岸河川敷遊歩道・自転車道

【所見】視察当日は、平日の昼前にも関わらず、健康増進のために散歩をされる方、散策を楽しまれる方の姿も多く見られ、市民の憩いの場として利用されており、佐賀市においてもこのような環境を整備するような検討も行う必要があるのではと感じました。

②兵庫県神戸市 電気自動車急速充電器の設置(募集による設置場所の選定)について

神戸市では、電気自動車普及のための急速充電器の設置に關し、公共施設以外の設置場所選定について、市内を8エリアに分け、そのうち6エリアについて応募条件、費用負担、選考方法等の詳細を明確に示し、民間事業者に対し募集を行われていました。神戸市の費用負担は、

充電器本体及び関連工事にかかる費用で、1基当たり概ね500万円までとされていました。

【所見】公共施設以外での急速充電器の設置については、設置場所の選定、地権者との交渉、設置後のランニングコストなどが問題となりますが、神戸市の手法は非常に参考となるものでした。しかし、その神戸市でさえも要件を満たす応募者が少ない状況であり、事業推進の難しさも実感しました。



募集による急速充電器設置第1号(スーパーオートバックスサンシャインKOBÉ)

佐賀市議会11月定例会のお知らせ 11月30日(水)午前10時開会(予定)

※正式な日程が決まり次第、市のホームページでお知らせいたします。

編集後記

2年間議会だよりの編集に携わってきました。その間、市民の皆さまに関心を持っていただけるよう、メンバーでアイデアを出し合いながら紙面の改善を行って来ました。また、市民の皆さまがどのようなことを知りたいと思っていられるか、ということを中心に掛けて編集を行って来ました。そのような私たちの思いが少しでも伝わっていれば幸いです。しかし、議会だよりの編集の動きや議員の活動を知っていただくための一つの手段でしかありませんし、「ここまでやればよい」という事はありません。もっと読みやすい紙面作りを行っていく事はもちろん、議会広報調査特別委員会や企画運営を行った「議会報告会」をより良いものにしていく事や、新しいツールを活用した情報発信に努めていかなければなりません。今のメンバーによる議会だよりの編集はこの号をもって終了となりますが、この思いは、次のメンバーに引き継ぎます。そして、今後も議会と議員一人ひとりが市民の皆さまにとって身近な存在となるよう、がんばっていきます。

(山下伸二)

